

.NET FrameworkによるXML Webサービスの実現と多言語対応

マイクロソフト 株式会社
デベロッパーマーケティング本部
マーケティング部
マネージャー
熊谷恒治

Microsoft
.net™

Microsoft .NET

- ◆ 他システム、他企業との連携
- ◆ マルチデバイス対応

Microsoft
.net™

Microsoft .NET

ソフトウェアはサービス

**サービスを組み合わせ
てソリューションを実現**

**既存のシステムまでも
サービスとして再利用**

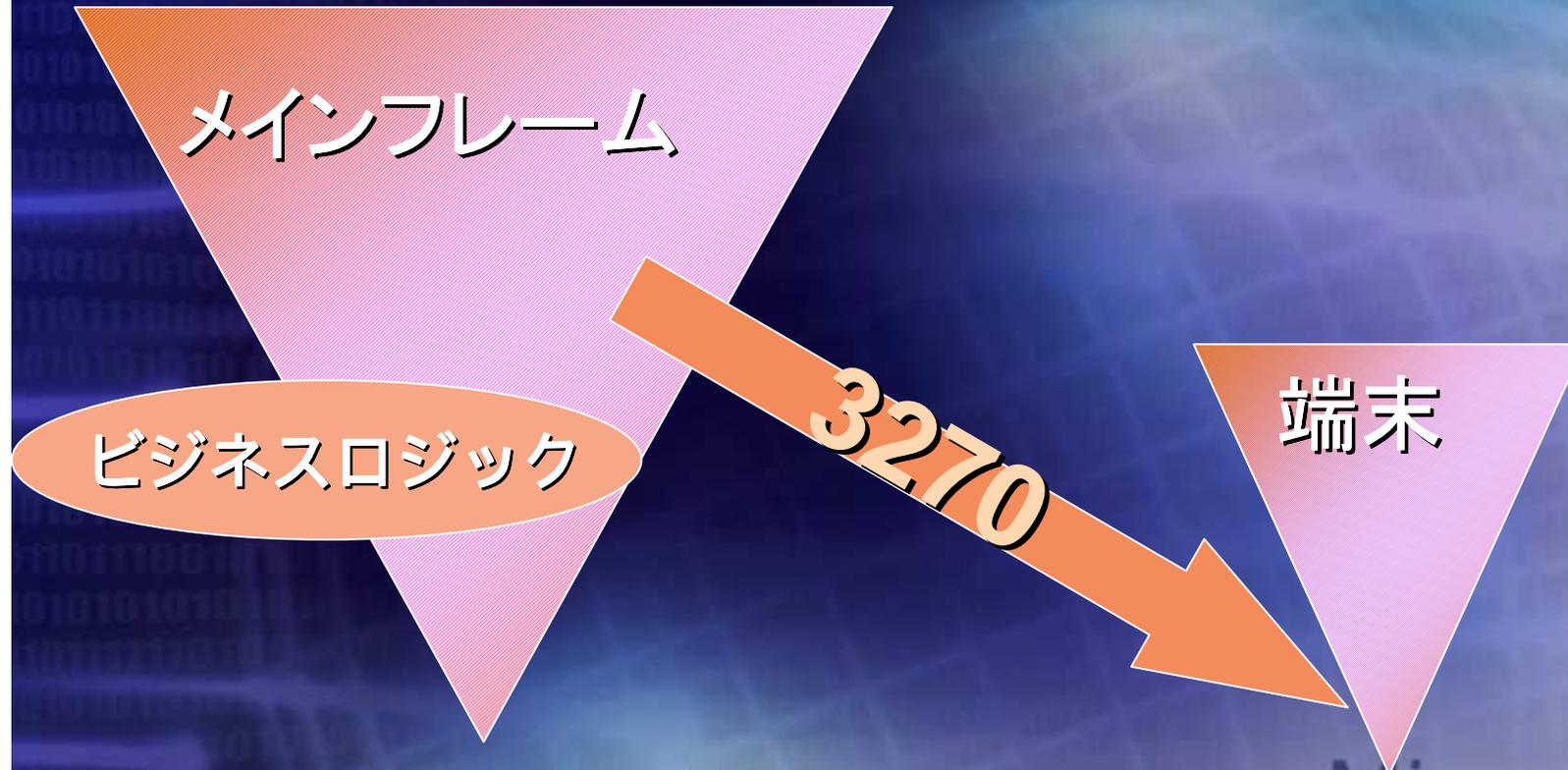
**必要に応じた様々な
デバイスの利用**

サービス連携

Microsoft
.net™

ホストと端末の世代

業務の効率化



ハード、ソフトの自由な組み合わせ
コンピューターリソースの開放

NEXT

オープン、クライアントサーバー世代 ナレッジワーカーへの情報ツール提供



企業内から取引企業、顧客への
コンピューターリソースの開放

NEXT

Webアプリケーション世代

ダイレクトな顧客へのサービス

Webサーバー

ビジネスロジック

HTML

ブラウザ

ソフトウェアリソースの開放
人を介さない自由なソフトウェア連携

NEXT

XML Webサービス世代



ソフトウェアとソフトウェアがお互いの環境、場所を意識せず、直接相互に利用しあう

インターネット(ネットワーク)をインフラとしてソフトウェアの機能を流通する
企業内、企業間のコラボレーション基盤

XML Webサービスは企業、部門間の コラボレーションを推進する

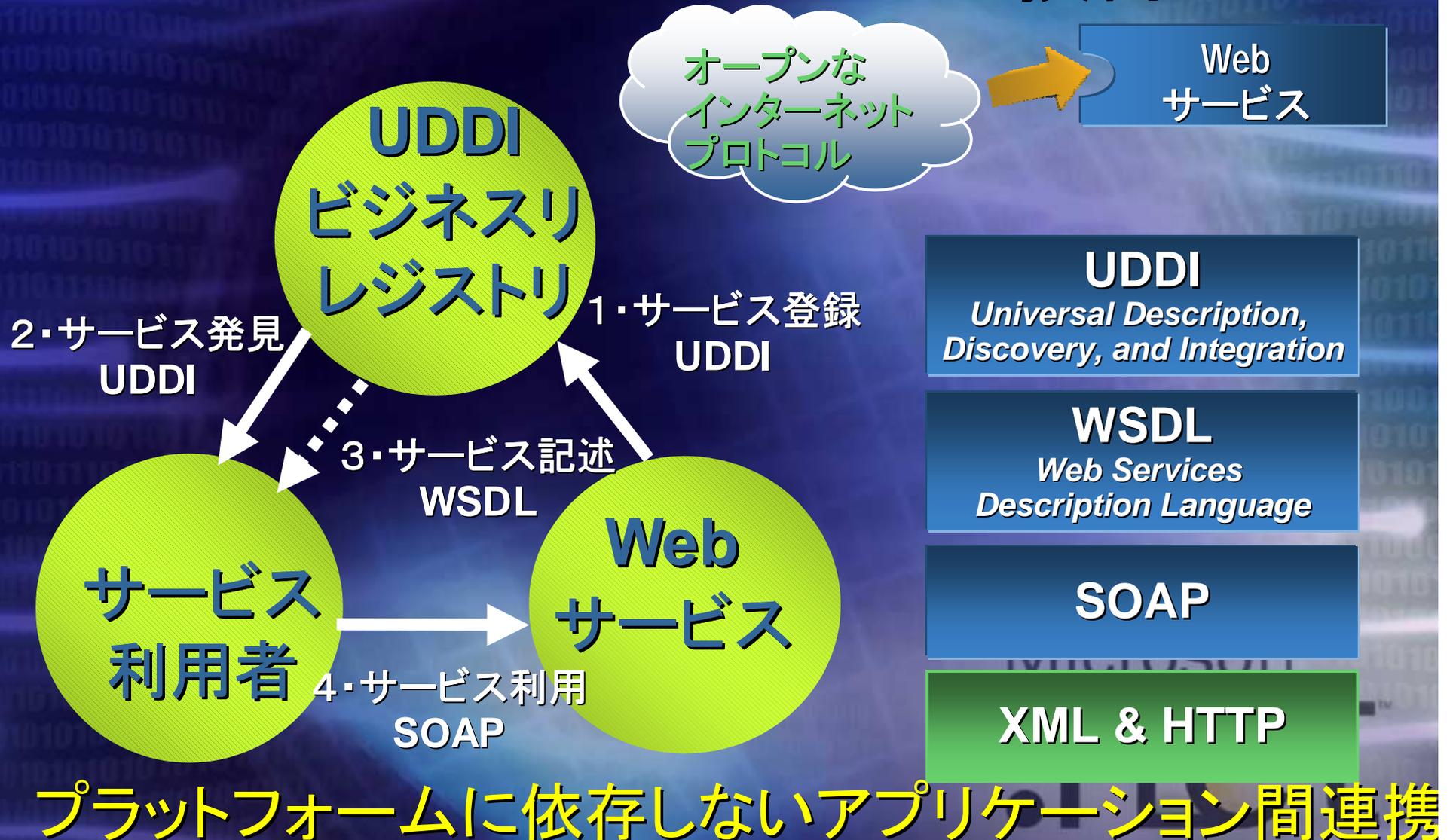


個々の企業、部門
の強みの再認識

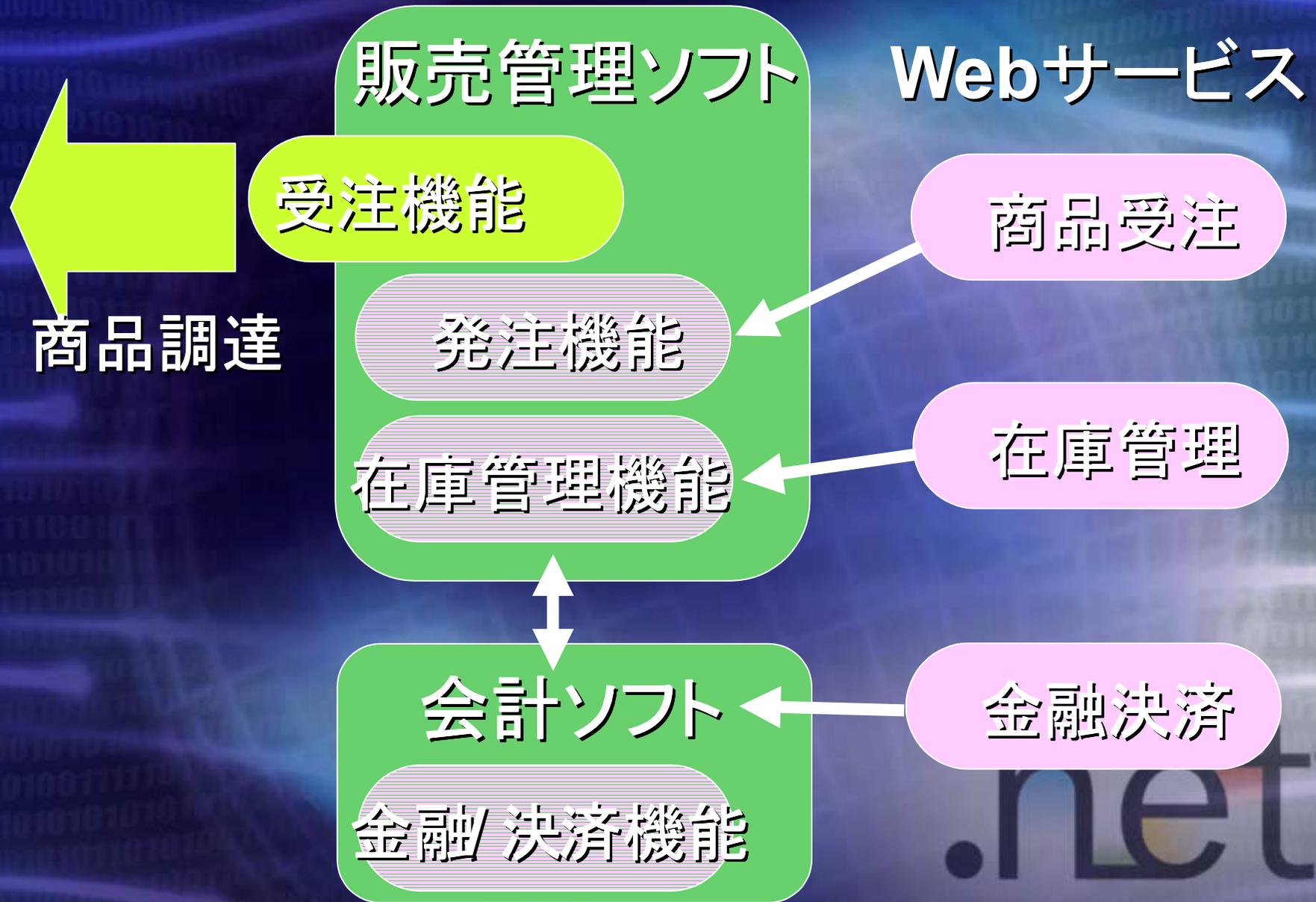
不必要な部分、
重複する部分の検討

パートナーとの
コラボレーション

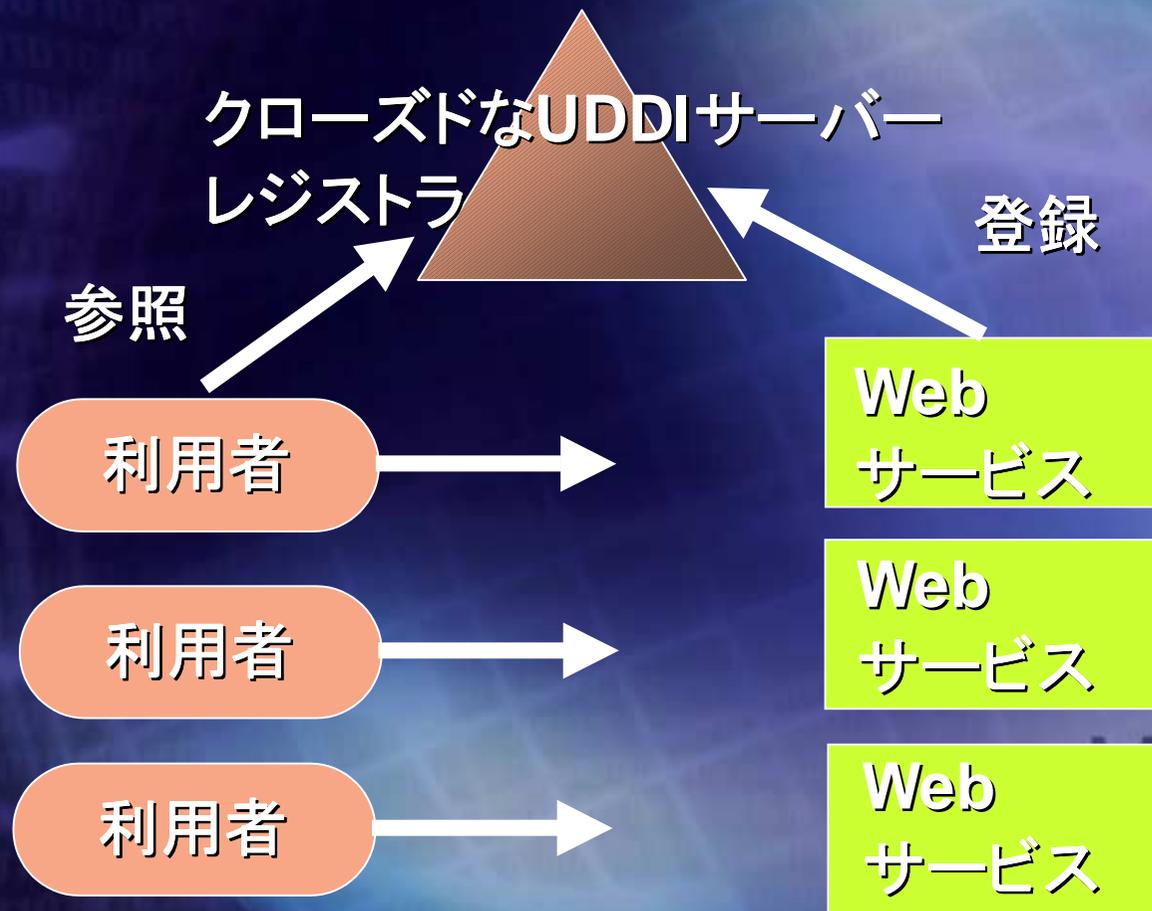
システムとしてコラボレーションを実現するXML Web サービスの基盤技術



システムからみたコラボレーション



イントラ及び関連企業との閉じた連携でのWebサービスの適応



マルチデバイス

Microsoft
.net™

マルチデバイス対応の現状と今後

Webアプリケーション

Winクライアントアプリ

携帯アプリケーション

個々のデバイス毎に
アプリケーションを作成
様々なミドルウェアの利用

ビジネスロジックのサービス化
複数デバイスをサポートする
フレームワークの利用

Web

Win

携帯

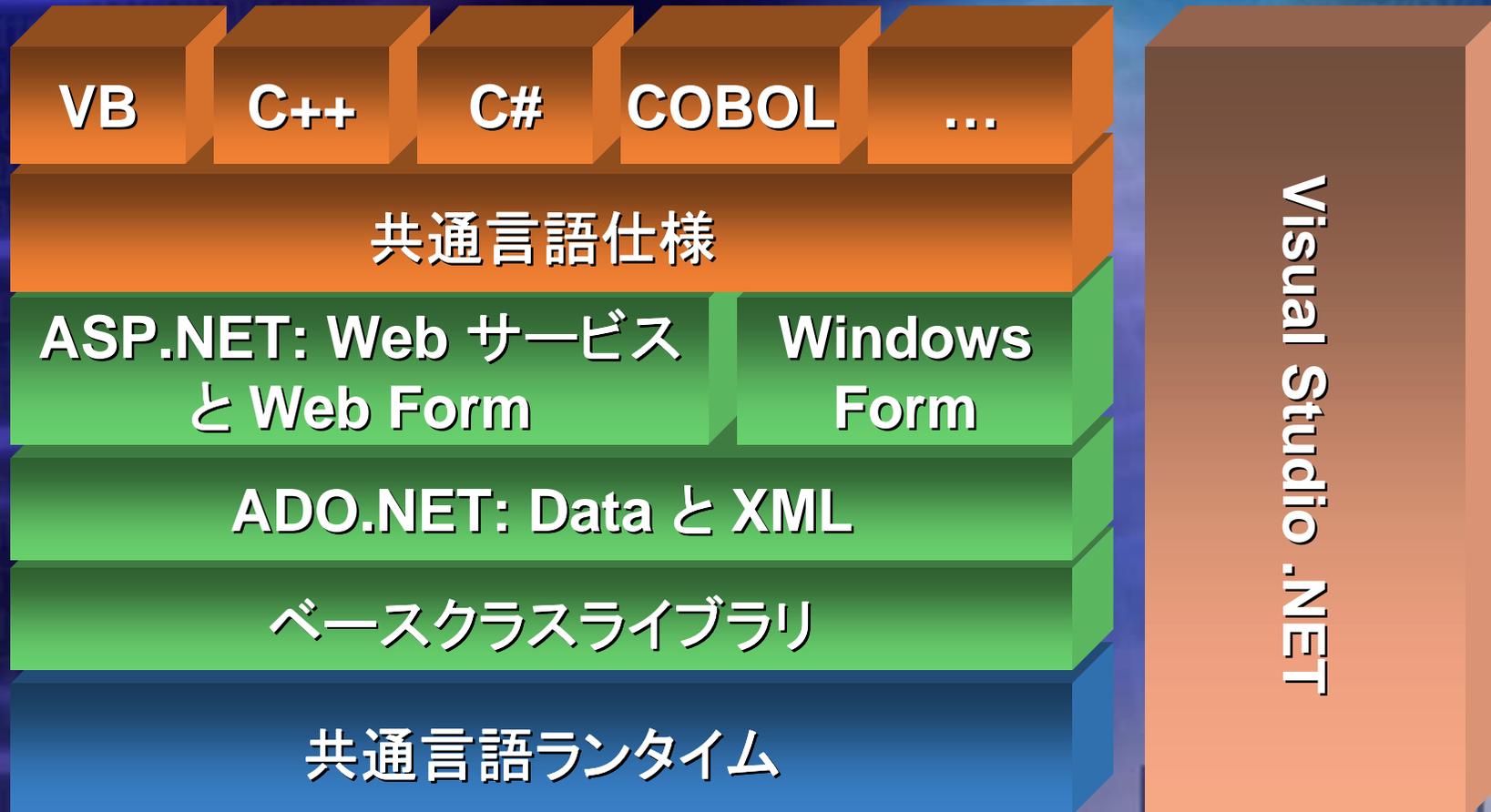
ビジネスロジック
(Webサービス)

マイクロソフトが提供するWebサービス、マルチデバイスの基盤

- ◆ XML Webサービスの仕様推進
- ◆ XML Webサービス開発環境
 - ❖ Visual Studio.NET、.NET Framework
- ◆ XML Webサービスを支えるソフトウェア
 - ❖ BizTalk Server、SQL Serverなどの.NET Enterprise Server群
- ◆ XML Webサービスの実行環境
 - ❖ Windows 2000, XP, Windows .NET Server
- ◆ XML Webサービスの基盤コンポーネント(サービス自身)
 - ❖ .NET My Services

Microsoft
.net

.NET フレームワークと Visual Studio .NET



.net™

.NETフレームワークの構成要素

.NET Framework

**Web
Services**

**User
Interface**

Data / XML

Base Frameworks

Common Language Runtime



.NET Frameworkの機能

- ◆ Webサービス
 - ❖ SOAPを用いてサービスを利用/公開
- ◆ Web Forms
 - ❖ ASP+とWeb FormsによってWebアプリケーション
- ◆ Win Forms
 - ❖ WindowsのようなリッチなUIを持つクライアントアプリケーション
- ◆ Data/XML
 - ❖ データアクセス機能/XML機能
- ◆ Base Framework
 - ❖ .NET Frameworkのための低レベルのプリミティブな機能

Microsoft
.NET

.NET Frameworkの可能性

- ◆ 共通言語ランタイムに対応したコンパイラで開発されたアプリケーションは相互利用可能
- ◆ 各言語でコンポーネントを作成し、それを再利用する
- ◆ 対応する言語は.NET Frameworkのすべての機能を利用
 - ❖ Webサービス
 - ❖ マルチデバイスを透過的にサポートするフレームワーク
 - ❖ 様々なデータリソースに透過的にアクセスするフレームワーク

Microsoft
.net™

なぜ多言語対応か？

- ◆ 技術者のノウハウの活用
 - ❖ 新しい言語を習得することなく、現在のノウハウ(ビジネスロジックの開発など)を新しいソリューションへ生かせる
- ◆ 既存システム上のコードを再利用する

Microsoft
.net™

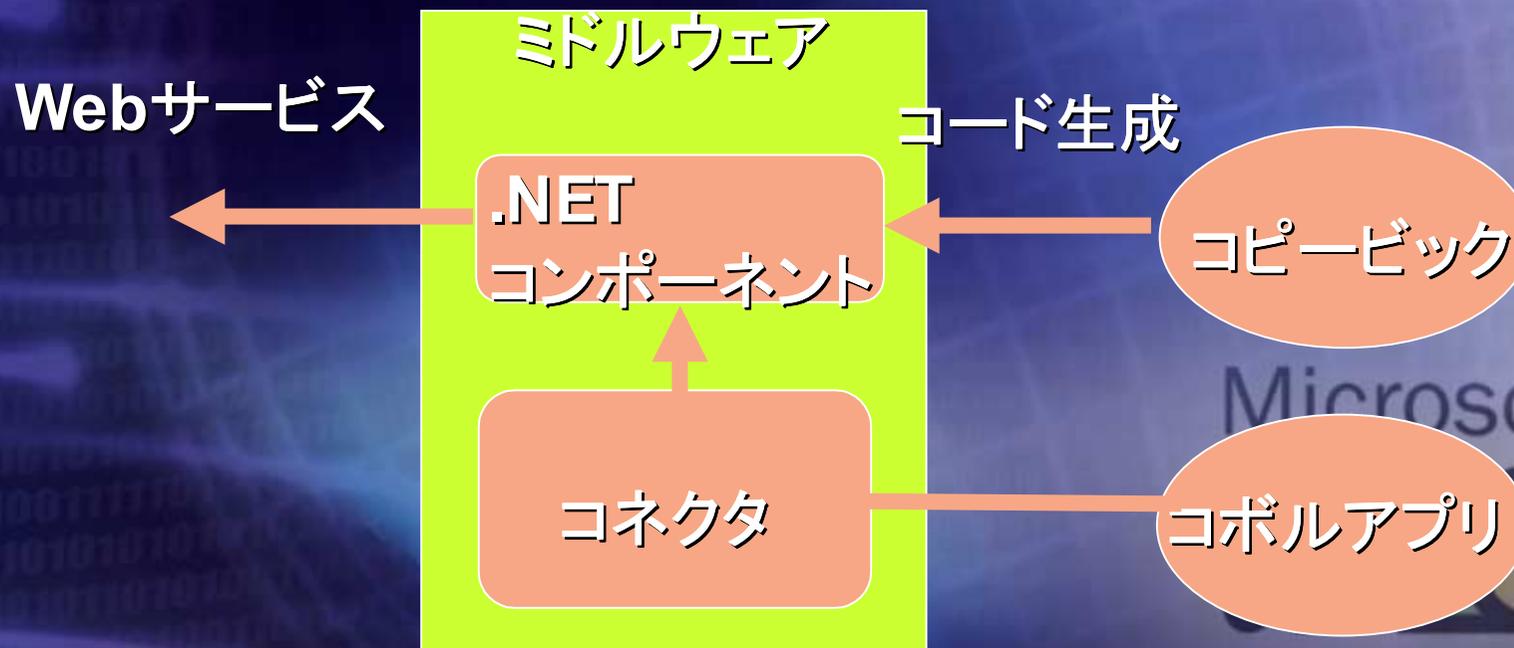
.NETとCOBOL

- ◆ ビジネスロジックを記述する強力な言語として位置づけ
- ◆ ビジネスロジックのWebサービス化
 - ❖ COBOL開発者のビジネスロジック開発スキルを有効利用
 - ❖ もしくは、オフコン、汎用機上で動いているコボルのビジネスロジックを一部転用しWebサービス化
- ◆ マルチデバイスサポート
 - ❖ COBOLのビジネスロジックをWebサービス化し、フロントエンドアプリケーションをWeb化以外に携帯、PDAなど様々なクライアントから利用できるようにサポートする

Microsoft
.net™

.NETとホスト上のCOBOLアプリケーション間連携 (Webサービス化)

- ◆ 汎用機上のCOBOLアプリケーションの.NET化、Webサービス化するツールを今後提供予定



.NETにおけるPOSベンダー様の事例

～コマースサイトと実店舗システムとの融合による未来ショッピングの実現～
XML Webサービスを.NET Frameworkにより実現



soft
.net

XML Webサービスの可能性

いつでも、どこでも、どんなときでも、
様々なデバイス、システムで、
必要なサービスを利用できる

サービスの提供者：
新しいサービスの迅速な提供
プラットフォーム透過によるマーケットの拡大

サービスの利用者：
新しいサービスの迅速な利用
プラットフォーム透過によりサービスの選択肢拡大

Where do you want to go today?

Microsoft®

Microsoft®
.net™